

平成十三年度 青森県豊かな海づくり大会

平成十三年度 青森県豊かな海づくり大会は、水産資源の維持及び漁場環境の保全についての認識をより一層深めるとともに、森、川、海とつながる自然の大切さをアピールすることを目的として開催されました。



祝辞を述べる木村県知事



祝辞を述べる秋田県議会議長



主催者 挨拶をする植村会長

本大会は、平成二年三沢漁港において開催された第十回全国豊かな海づくり大会を記念し、平成三年度より県内各海域を代表する漁港で取り進めてきており、平成十三年度青森県豊かな海づくり大会は、去る九月三十日（日）青い海公園（アスパム海側）において、県内の各漁協や水産団体関係者約二百五十人が参加のもと、盛大に開催された。

大会は、平内町立茂浦小学校の生徒達による「はたて太鼓」でオープニングセレモニーが始まり、植村正治大会実行委員会会長は「二十一世紀は自然と共生の時代、資源有限・漁業無限を標榜し、地方の時代の核として、漁業・漁村を確立するため頑張りましょう」と主催者を代表して挨拶を述べ、来賓の木村守男県知事、秋田柎則県議会議長の祝辞の後、本県水産業で他の模範となるような優れた実績を上げている個人や団体を表彰する「青森県水産大賞」が、一人一団体に贈られた。

このほか、平内町漁協青年漁業士の田中哲也氏が「私はホタテの育ての親」、森林組合あおもり参事の竹内義美氏が「森を育てる」、小泊漁協婦人部長の駒井昭江氏が「浜の美化運動」と、それぞれ「浜の声」の取り組みを発表した。また、県漁港協会より大会実行委員会を通じて「漁港美化運動を推進するための支援をしたい」とのことと寄贈された寄付金を、青森県女性組織協議会へ「浜の美化運動助成金」として贈呈。

最後に、古川俊大会実行委員会副会長が大会決議を朗読し、満場一致で決議された。

また、水産資源維持と漁場の環境保全を願い、幼稚園児外大会参加者がヒラメとクロソイの稚魚を陸奥湾に放流した。

☆青森県水産大賞受賞  
個人及び団体



細川 慶子

(青森県漁協女性組織協議会副会長)

漁業の担い手として女性の地位向上に努めているほか、海兵清掃等の環境保全やホタテガイの消費拡大に取り組み、漁協女性部の活動を支えている。



野牛 漁協

(三國優代表理事組合長)

漁協一丸となって外海ホタテガイの増殖を行っているほか、宅配便とインターネットを活用した販路拡大で沿岸漁業の振興に寄与している。



稚魚放流



平成13年度 青森県豊かな海づくり大会  
「青い海、こころ豊かに自然と共に生」 主催/青森県豊かな海づくり大会実行委員会

青森県水産大賞受賞の個人及び団体



ほたて太鼓



大会風景

**平成13年度  
青森県豊かな海づくり大会  
大会決議**

本県は日本海・太平洋・津軽海峡、更にむつ湾という豊かな海を有すると共に、世界遺産の白神山地に代表される豊かな森林にも恵まれている。

豊かな森林が育んだ清浄な水は、やがて集まり川となって海へと注ぎ込み、生命の源となって多くの魚や貝を育てている。

我々海に恩恵を受ける者にとって、海をきれいに、そして豊かにすることは責務であり、使命感をもって取り組み、同時に水を守るため、森林を育てる取組も行わねばならない。

我々は、水産基本法の理念に基づき、

1. 漁港・漁場・海岸の清掃及び漁村におけるトイレの水洗化、生活雑排水の処理等に関する整備を推進する。
2. 緑化等による漁港の美化運動を推進する。
3. 国民の食料たる水産物の安定供給を図るため、水産動植物の増養殖を推進する。

よって、平成13年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり、私たち県民が一丸となって漁場環境の保全と魅力ある住み良い漁村の生活環境を構築し、21世紀の豊かな海づくりに向けて邁進することをここに決議する。

平成13年9月30日  
青森県豊かな海づくり大会実行委員会